



No. 43

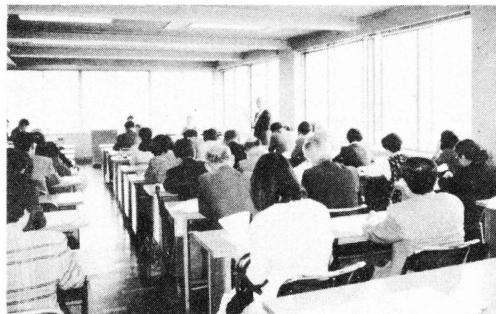
平成9(97)年8月1日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL(075)771-0069

平成九年度 定期総会開かれる



総会は、京都市西京図書館の駒井孝次館長を議長に選出。加盟館二十九館の出席、十八館の委任状で総会が成立していることを確認し、議事がすすめられ、平成八年度会務報告と決算報告、平成九年度事業計画及び予算案について報告があり、提案どおり承認されました。

また、市町村図書館等の特徴的な動きとして、平成八年六月の宇治田原町立図書館の新設や七月の美山町立図書館の新設、そして九年二月の山城町立図書館の新設開館に続いて、京都市醍醐中央図書館と西宇治図書館の新設、園部町立図書館新築の具体化など、新館ラッシュともいえる施設面での充実が報告されました。

相互協力では平成六年度から実施されている「FAX版WANTED」により、市町村間の相互貸借が大幅に伸びている状況や、この取組での課題も提示されました。さらに図書館におけるコンピュータの導入や更新、図書館間のネットワーク化などが進んでいる状況も報告されました。

事業報告は、第五回図書館大会の成功、研修事業の充実や相互協力事業の活発化、広報紙面の充実などが

平成九年度定期総会が五月二十九日（木）に京都府立総合資料館会議室で開催されました。開会に際して、高向洋祐会長、会場館である京都府立総合資料館中山禎輝館長の挨拶、続いて異動に伴う新理事の紹介が行われました。

取り上げられました。この中で、研修事業の初めての試みとして、実務研修会を南部会場と北部会場の二回

異なったテーマで開催し、そのことによってより多くの図書館員が参加しやすい状況になったことが特筆されます。

◇総会議事◇

◇会務報告◇

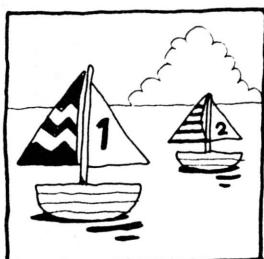
会務報告では、新府立図書館における具体化への動きや、宮津・峰山両地方分館の廃止などについて。

◇事業計画◇

平成九年度事業計画では、総会・理事会の開催をはじめ、研修研究・相互協力・広報の各事業の他、関係機関への要望活動や第六回京都図書館大会の開催への対応などがかかげられ、それぞれの委員会などで具体的化が図られることになりました。

特に研修研究事業については、昨

年度の反省から、年度当初から取組がなされ、一泊研修（北部）と中部・南部それぞれの会場の候補も委員長から発表され、具体化へと進み出しています。



◆九年度被表彰者◆

襟川 茂（京都ライトハウス点字図書館）	古川 百子（京都府立総合資料館）
岡野 英彦（向日市立図書館）	尾上 喜代史（元京都市生涯学習総合センター）
筒井 浩美（京都市中央図書館）	井上 嘉久（京都市洛西図書館）
横山 紀子（京都市伏見中央図書館）	嘉山 紀子（京都市伏見中央図書館）
今井 亮子（京都市南図書館）	橋本 育子（京都市吉祥院図書館）
岡本 練子（京都市西京図書館）	岡本 練子（京都市西京図書館）

◆事例発表◆

定期総会の後、事例発表会が行われ、新館設置オープンに向けての苦労話がこもごも発表されました。発表テーマと発表者は次のとおり。

「準備から開館、そして一年」

宇治田原町立図書館 内田貴子氏
「開館一年の経過から」
美山町立図書館 小畠 弘氏
「町ではじめての公共図書館」
山城町立図書館 岸 正治氏

◆府立図書館等の現状報告◆

事例発表の前に、府立図書館及び府立総合資料館の現状報告がなされました。平成九年度にはいって府立本館の休館及びデーテベーレス化に伴う資料の凍結とそれによるWANT EDの増加など、これまでにない状況にあることと、九月に予定されている引越期間中（準備期間も含む）は、連絡協力車の運行をストップせざるを得ないことや、レフアレンスサービスにおける総合資料館の役割分担など、それぞれの現状について府立図書館長と総合資料館文献課長から報告がありました。

◆人事異動に伴う

京図連協役員等異動
△理事△
理事 新 小畠 弘
旧 松魚 繼代
（美山町立図書館）
△事務局△
事務局長 河原 茂記
事務局員 藤島 幹也
（京都府立図書館）

◆第一回 理事会（臨時）報告◆

総会の前に、第二回の理事会が総合資料館で開催され、総会の事前打ち合わせ等が行われました。

新府立図書館についての報告がありましたので、ご紹介します。

新府立図書館開館に向かって

京都府立図書館長
五十嵐 一郎

平成八年二月一日京都府知事は老朽化の激しい府立図書館を全面改築し、あわせて府立総合資料館の蔵書と一体化し、二十一世紀に向けて府立図書館は、この四月から閉

加茂町立図書館 井上 敬子
長岡市立図書館 中村 浩司
福知山市立図書館 水島 弘之
美山町立図書館 小畠 弘

◆第一回 理事会報告◆

十八年に府立図書館の大半の蔵書が移管され、それを核に形成されてきたものです。その後両館はそれぞれ独自の収集方針のもとに蔵書の蓄積を行い、現在総合資料館約六十万冊、府立図書館約四十万冊、合計約一〇〇万冊になっています。この数字は都道府県立図書館のなかでも最上位になるものであり、約一〇〇万冊を基礎蔵書とする新府立図書館が府民に資料をとおして行うサービスは府民の生涯学習に大きな役割を果たすものと考えています。蔵書について前滋賀県立図書館長前川恒雄氏（現甲南女子大学教授）が、かつて、滋賀には新しい本は比較的多いが、古いのは京都や大阪にとてもおよばず県民への資料提供に問題があるとの趣旨の発言をされていますが、特に府県立図書館では古い本から新しい本まであって、眞に府県民の資料要求に応えられるものです。その意味からも、蔵書の一体化を前提とした新館建設は嬉しい発表と言えます。現在、平成十二年度の開館を目指して府立図書館は、この四月から閉

◆新館長紹介

京都府醍醐中央図書館阿久澤宏一郎
同 東山図書館 長谷川 浩
同 南図書館 宗村 隆生
同 醍醐図書館 大澤 勝

館して新館開館の準備に入っていますが、新館構想は平成七年十二月一日に出された京都府社会教育委員会議の「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について（提言）」を踏まえて進められているものです。この「提言」を受けて知事の表明があり、八年度当初予算としてマルチメディアを最大限活用した二十一世纪対応型図書館を作るため図書館機能の肉付けや情報ネットワークシステムの設計など基本計画の策定費として二千万円が予算措置されました。

ついで九月五日に知事は文化財的視点から正面（東側）壁面を保存して現在地に改築整備することを表明され、八年度九月補正予算で京都府教育委員会は「新府立図書館建設基本計画の概要」を発表するとともに基本設計費、プロポーザル・コンペ開催費、壁面保存構造診断調査費等六千五百万円の予算が措置されました。「基本計画の概要」では基本構想として①府内どこでも、様々なサービスが均質に受けられる図書館（市町村立図書館支援型）②日本の文化の中心としての「京都」のすべてがわかる図書館③府民と国立国会図書館関西館を結ぶ図書館の三本柱を更に明確にし、プロポーザル・コンペで決まった新府立図書館のイメージ図

等も併せて発表しています。九年度当初予算では新館整備関係費（実施設計費、補強工事費）、情報ネットワーク関係費（詳細設計費、図書資料データ化費）、その他（埋蔵文化財発掘調査費、解体設計・工事費等）六億四千五百万円が措置され、六月三十日には建物の「基本設計図書」と「情報ネットワークシステム基本設計業務報告書」も発表されました。新館準備では、府教育委員会は新図書館の基本構想・計画等を主に行い、府立図書館は図書データ化のための蔵書点検、図書データチェック、バーコード貼付作業等を行っています。

新館は現在地で立て替えをするため、開館までの間、仮施設に移転しなければなりません。移転時期は九月中旬を予定し、それまでに図書全部のデータ化の準備を終えなければなりません。そのため図書を動かすことができず、これまでのようになります。WANTEDが増えて、市町村の図書館にはご迷惑をかけていますが、連絡協力車の運行を中心とする支援業務は今後とも可能な範囲内で続けていきますのでご協力をお願ひ致します。

新館紹介

京都市醍醐中央図書館



京都市における十七館目の図書館、三館目の中央図書館として、様々な施設を併せ持つた新しいタイプの複合ビル、パセオ・ダイゴロー西館内に、醍醐地域の中核図書館として四月三十日にオープンしました。

開館後一ヶ月の利用状況は、登録者数五、四六〇人、貸出者数九、七六五人、貸出冊数二二、〇二七冊、視聴覚資料（ビデオ、CD、カセット）で、一日平均がそれぞれ二一八人、三九一人、八八一冊、二五七点になり、登録者数は一ヶ月で五千人を超え、一年間で二万人という目標の四分の一に達し、十月の地下鉄開通後は、さらに利用者が増えるものと考えています。

今後は、醍醐地域の、そして京都市民の心のオアシスとなり、教養、文化を高める拠点として、また、子供たちが自ら進んで読書への興味、関心を高める場として、醍醐地域に根差した、特色をもった図書館となるよう充実を図っていきたいと考えています。

専門委員会ニュース

◎研修研究委員会より

研修が年度末に集中した昨年度の反省にたって、今年度の第一回研修研究委員会を総会前の五月十六日に京都府立図書館で開きました。

各委員のグループ分けをして担当を決めたあと計画の概要を次のとおりまとめました。

◎一泊研修

日時 九月十一日（木）午後から十二日（金）午前まで

場所 国民年金健康センター
丹後おおみや（大宮町字三坂）
内容 児童サービスに関連したもの

講師 異照子氏

（滋賀県永源寺町図書館建設準備室長）

◎一日研修（北部会場）
（研修日 内容は未定）
場所 福知山市立図書館

（予定）

研修日は未定ですが研修内

容は障害者サービス又は人権保護・プライバシーに関連したもの

を予定。

◎相互協力委員会より

今年度の相互協力委員会の事業計画は、相互貸借事業の推進、相互協力担当者会議の開催、その他です。

委員会の開催が府立図書館の事情により遅れていますが、九月の仮施設移転後できるだけ早く開く予定です。ここでは今年度の相互協力につきます。ここでは府立図書館の状況を中心に報告します。

四月以来、府立では図書のデータ化作業等を行っています。それに伴い、閲覧課図書が一時凍結され、W

AN TEDの件数が大幅に増えるなど市町村の皆さんに大変ご不便をおかけしています。また、今年度図書費が参考図書購入等に限定され、リクエストに充分対応できない状況が続いている。さらに、仮施設への移転作業のため、九月中は貸出し・連絡協力車の運行を含めて府立のサービスが全て停止します。

昨年度末の担当者会議で、WANTEDの返事を府立に集中できないかという意見が出されました。総会で館長が説明した通り、当面これまで通りの方法を続けざるを得ません。しかし、昨年の相互貸借実態調査でも、WANTEDの方式を改善してほしいという意見が出されており、継続して委員会や担当者会議で議論していく必要があります。

相互協力担当者会議については、委員会で企画し、実のあるものにしたいと考えています。

◎広報委員会より

本年度第一回広報委員会を五月十六日に京都市向島図書館で開催し、会報四三号を四ページにてとすると及び今後共紙面の充実をはかり、第四四、四五号は六ページとするこ

と等を決定しました。

次回の委員会は「会報四四号の編

集と分担について」を内容にして行う予定です。

なお、新広報委員として、大澤周子氏（府立総合資料館。比嘉雅子氏と交替）を迎えました。また、森本三貴子委員の姓が変わり田島三貴さんとなりました。

編集子

府立図書館が新館建設のため休館に入つて早四ヶ月。相互協力の担当者は膨大な量のWANTEDに悪戦苦闘の毎日とか…。時が経つにつれ、ますます府立図書館の重要性が認識させられる今日この頃です。